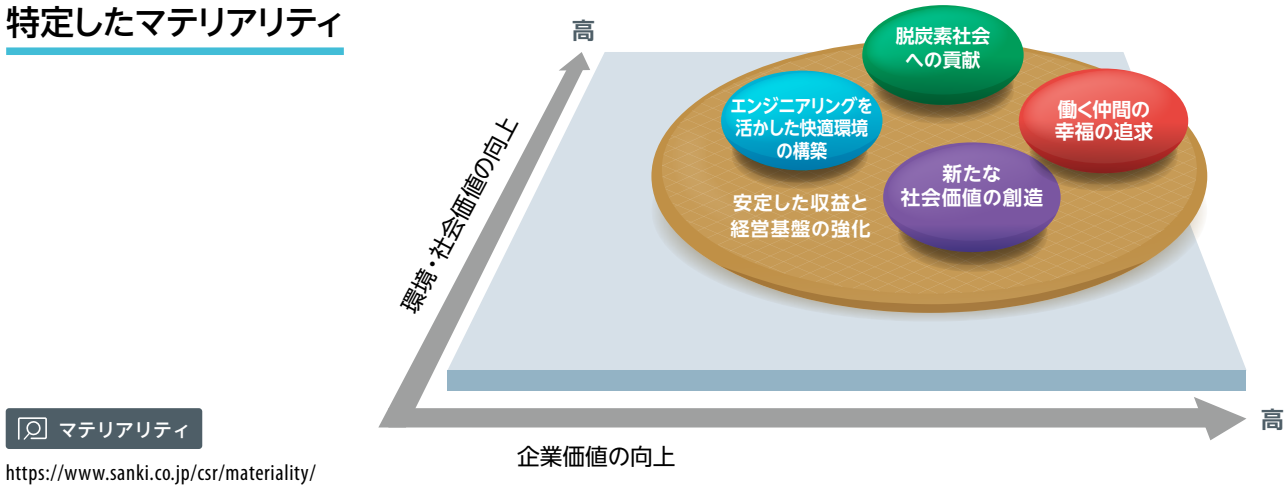


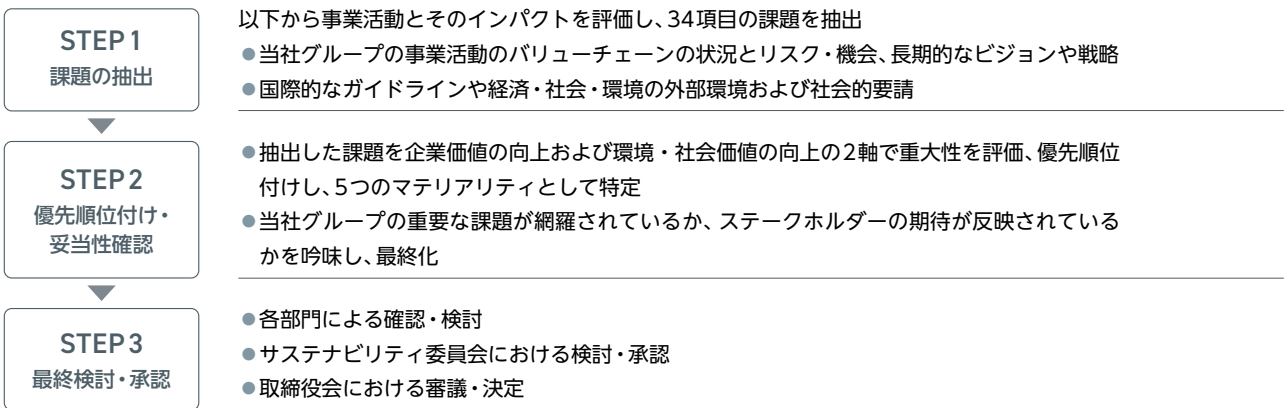
三機工業グループのマテリアリティ(重要課題)

三機工業グループは、2022年2月に「5つのマテリアリティ(重要課題)」を特定しました。さまざまな視点から抽出した課題を「環境・社会価値の向上」と「企業価値の向上」の面から評価した、これら5つのマテリアリティに対する施策に経営資源を重点配分し取り組むことで、強靱な経営基盤と持続可能な社会の実現を目指します。

特定したマテリアリティ



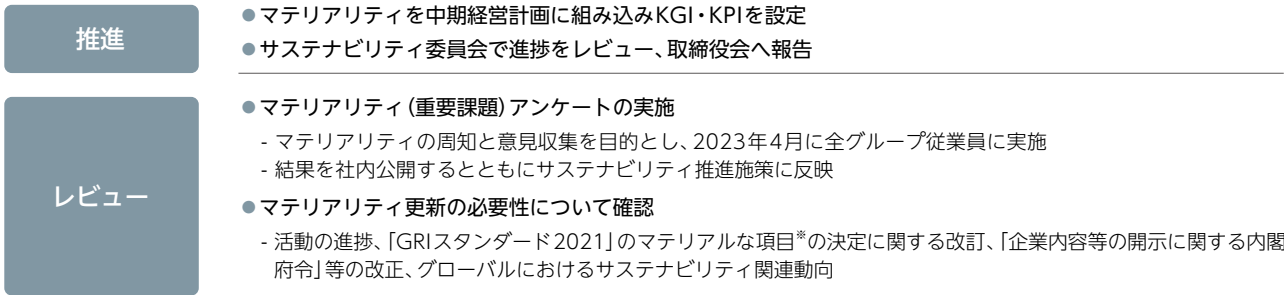
マテリアリティの特定プロセスと推進・レビュー



STEP1で参照したガイドライン等

(組織内) 長期ビジョンや事業戦略、経営計画/役員各部門との意見交換/社内アンケート

(組織外) ISO26000/SDGs/GRIスタンダード/SASBスタンダード/ESGに関する調査・評価(DJSI等)/統合報告書アンケート/外部有識者、アドバイザーの意見・助言/グローバルリスク報告書



※組織が経済、環境、ならびに人権を含む人々に最も著しいインパクトを与える項目

サステナビリティへの貢献

マテリアリティ(重要課題)	取り組み	貢献するSDGs
脱炭素社会への貢献	培ってきた省エネルギー・創エネルギー技術を建築設備やプラント設備の多様な分野で活用し、カーボンニュートラル実現に貢献します。 ● 脱炭素化の推進 ● 再生可能エネルギー発電事業の推進 ● 脱炭素関連市場の拡大	7 再生可能エネルギーを拡大する 9 産業と地域コミュニティの持続可能な開発 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を
働く仲間の幸福の追求	かけがえない財産であり仲間である「人財」が、仕事を通じて幸福を追求できる環境を整え、持続的な成長を目指します。 ● 人財育成と技術の向上 ● 働き方改革の推進 ● 人権の尊重 ● ダイバーシティの推進	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を達成 8 働きがい、経済成長、雇用 10 人や国の不平等をなくす
エンジニアリングを活かした快適環境の構築	当社の要素技術を横断的に融合した総合エンジニアリング力を展開し、社会を支える多様な「快適環境」の構築に貢献します。 ● 強靱な社会インフラの構築 ● 水処理ビジネスの多角化	6 安全な水とトイレを世界中に 7 再生可能エネルギーを拡大する 9 産業と地域コミュニティの持続可能な開発 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくばない、つかう、減らす 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう
新たな社会価値の創造	移りゆく社会のニーズに率先して応えるべく、あらゆる技術・知見を総動員して継続的に取り組み、新たな社会価値の創造に挑みます。 ● 社会貢献活動の推進 ● 自動化省人化市場の拡大 ● コンサルティングサービスの拡充	1 貧困をなくそう 2 質の高い教育をみんなに 3 すべての人に健康と福祉を 9 産業と地域コミュニティの持続可能な開発 12 つくばない、つかう、減らす 15 陸の豊かさを守ろう 17 パートnershipで目標を達成しよう
安定した収益と経営基盤の強化	将来にわたり社会に必要とされ、その健全な発展に貢献していくために、安定的な収益を生み出す強靱で柔軟な経営基盤の構築に尽力します。 ● ガバナンス体制の強化 ● コンプライアンスの徹底 ● 労働安全衛生の推進 ● 品質の向上 ● 生産性の向上 ● DXの推進 ● 安定した長期ビジネスの確保 ● ステークホルダーへの還元	3 すべての人に健康と福祉を 8 働きがい、経済成長、雇用 9 産業と地域コミュニティの持続可能な開発 16 平和と公正をすべての人に

SANKIカーボンニュートラル宣言

三機工業グループは、世界が直面する気候変動問題に真摯に取り組み、グループ自らの温室効果ガス排出量(Scope1,2)においては2030年までに、サプライチェーンを含む温室効果ガス排出量(Scope1,2,3)においては2050年までにカーボンニュートラルを目指します。

脱炭素に関連する省エネルギー・創エネルギーへの取り組みは、総合エンジニアリングを展開する当社グループの本業に直結する部分でもあることから、特定したマテリアリティの中でも「脱炭素社会への貢献」を最優先課題として位置づけています。2050年のカーボンニュートラルの達成とそれに向けた中間目標を設けました。